

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,287	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,287

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%		%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	83.83	t-CO ₂ / Gbps	75.45	t-CO ₂ / Gbps	68.84	t-CO ₂ / Gbps	58.94	t-CO ₂ / Gbps	27.67	t-CO ₂ / Gbps
削減率（対 基準年度）			10.0 %		17.9 %		29.7 %		67.0 %	
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / Gbps		t-CO ₂ / Gbps		t-CO ₂ / Gbps
削減率（対 基準年度）					%		%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

達成：5G普及に伴い通信容量が増加したが、設備の老朽化更新を積極的に行うことにより省電力化を図れた為。今後、通信事業者として、AIの活用の拡大に伴う通信トラフィック量増大に対応すると同時に、CO2削減取組みを常に推進していくことが必要であると考えます。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理：エネルギー使用量等の把握及び管理	・@エナジーを利用し、定期的にエネルギー使用量の記録を実施する。	入力漏れ・誤記入がないよう入力者及び確認者によるチェックを徹底する。	継続中
省エネルギー・省資源の推進：冷暖房	・夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを推進する。 ・ブラインドの活用による日射負荷軽減を実施する。 ・サーキュレーターを導入により冷暖房の効率化をはかる。	従業員の意識向上を図るとともに、人為努力で出来ることは極力実施する。	継続中
省エネルギー・省資源の推進：照明	・廊下、トイレに人感センサを用いて、不必要な照明利用を抑止する。 ・人の出入りが少ない時間帯は基本的に消灯する。	従業員の意識向上を図るとともに、人為努力で出来ることは極力実施する。	継続中
省エネルギー・省資源の推進：OA機器	・離席時のサブモニタ電源OFF、PCのスリープ機能推奨を図る。 ・複合機は未使用時省電力モードを徹底する。	従業員の意識向上を図るとともに、人為努力で出来ることは極力実施する。	継続中
省エネルギー・省資源の推進：その他	・階段利用を推奨しエレベータ稼働を抑制する。	従業員の意識向上を図るとともに、人為努力で出来ることは極力実施する。	継続中
自動車利用における取組	・ドライブレコーダ搭載により急加速・急発進の抑制を図る。 ・エコドライブの推進を図る	エコドライブを心掛ける事を車内に明示する。	継続中
廃棄物の排出抑制等	・紙面電子化によるペーパーレス化を推進する。 ・機密書類については溶解処理を実施し、リサイクルをおこなう。 ・会議資料は電子ファイルで展開しペーパーレス化につとめる。	コピー、印刷は用途を明確にするため管理簿で徹底管理する。	継続中
環境教育	・週に一日定時退社日を設け、節電に努める。	毎週水曜日を定時退社日と定め、定時退社促進を徹底する。	継続中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>機器室エリアにおいて通信設備による熱量を新設される都度検討し、ガラルの適正配置を行う事で熱だまりの解消及び電力消費を低減させるように努めた。</p> <p>毎日19時以降は事務所内空調設備を自動停止させるようにし、電力消費を低減させるように努めた。</p>

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>毎週水曜日を定時退社日と定め、定時退社を徹底する。 プレミアムフライデーである月末金曜日の定時退社を推奨する。</p>
--

